

令和 7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
30	川崎市立 日吉小 学校	中野 正明

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
豊かな人間性を持ち たくましく生きる子 元氣・やる気・思いやり	○一人一人が確かな学力をつけ、学ぶことが楽しい授業づくり ○よりよい人間関係づくりを目指す児童支援体制の充実 ○安心安全な学校づくりへの取組の継続 ○地域と共に歩む学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	＜確かな学力・楽しい授業＞ ○児童に身に付けさせたい資質・能力の明確化 ・学習内容の明確化と学習内容の工夫 ・一人一人に応じた指導・支援の充実	・何をいつ学ぶのか、学習の系統性を明確にするために学習計画を立て、学びの積み重ねができるように学習を進めた。指導の在り方、児童の学習理解など、指導と評価の一体化の視点で教師が学習を振り返る必要がある。	・児童の学習の成果を自らの指導の成果と考え、常に学習の仕方を振り返り、教師が授業改善を常に行う必要がある。
2	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・児童同士のかかわりの中で、伝えあいを通して気付き力・広げる力を育む指導	・他者と関わり合いながら学習を進めることで、他者の考えを聞いたり、自らの考えを述べるなどして、考えを深めたり広げたりすることができた。単に話し合いをするだけでは、話の深まりや主体的な活動にはなっておらず、学習の仕方に課題がある。	・主体的に学習に取り組むためには、学習の基盤となる知識の獲得が必要である。単なる話し合いではなく、知識を獲得し、その知識をもとに話し合うなど、学習の進度によって学習形態を変えながら進めることが必要である。
3	＜よりよい人間関係・児童支援体制の充実＞ ○基本的な生活習慣の確立 ・他者を大切に思い、認める人間関係づくり ・一人一人に役割を与え、自己有用感や自己肯定感を向上させる	・一人一人に役割を与えることで、自己有用感や自己肯定感をある程度育むことができた。しかし、他者を思いやる心や認める人間関係作りについては十分に進めることができたとはいえない。	・今後も一人一人に役割を与え、帰属意識や自己有用感、自己肯定感を育んでいきたい。他者を思いやる心や認める人間関係作りについては道徳教育を中心に引き続き取り組んでいきたい。
4	○児童支援体制の充実 ・児童一人一人に応じた指導の充実 ・少人数指導や取り出し、入り込み指導の実施	・支援教育コーディネーターが中心となって、保護者との面談、教室に入れない児童の対応など、一人一人に応じた指導の充実に向けて取り組むことができた。少人数は4年生の算数で実施、入り込みについては各学年の児童に対応した。	・全校児童数が多い為、まだ十分に対応しているとはいえない面もある。特に支援教育コーディネーターが一人であり、今年度は担任も兼ねていたこともあるため、学校規模に応じて支援教育コーディネーターを拡充してほしい。
5	＜安心安全な学校づくり＞ ○「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」の推進 ・日常における危険の理解 ・交通場面における危険の理解 ・災害発生時における危険の理解	・児童、保護者、教員ともに8割から9割が交通安全や災害に対しての指導に努めていたり理解をしていると回答していることから、ある程度の成果は得られていると考える。学校内の怪我、登下校の安全については、引き続き行動の分析と安全確保に努める必要がある。	・事故やヒヤリハットに関して現在分析中であるが、起こっている時期や時間、場所などを分析しなおし、心理の面から必要な対策を取っていく。また、交通安全や災害に対しては、引き続き情報発信を含めて安全対策に努めていく。
6	○教育相談の充実 ・児童の困り感に寄り添った対応 ・巡回カウンセラーの活用とスクールカウンセラーの派遣要請	・昨年度同様、児童に寄り添った指導については、アンケートにおいて保護者と教職員の認識に大きなずれがある。児童・保護者からの困り感について、受け身になっていることは事実だが、経験の浅い教員が増えていることも要因であると考えられる。	・学年内での情報の共有が十分ではないのではないかと考える。経験のある教員が自分のクラスだけでなく、他のクラスの子どもの困り感を認識し、共有することで児童や保護者の困り感に気付くことができるように努める。
7	＜地域と共に歩む学校＞ ○地域人材の活用、郷土愛の育成 ・地域人材(ゲストティーチャーなど)を活用し、児童に郷土愛を育む ・地域、家庭への積極的な情報発信	・地域人材の活用については、できる限り声をかけさせていたが、日吉の歴史や地域性などについて児童に触れさせることができた。しかし、地域に直接触れ合うことが以前に比べて減ってきていることも事実である。	・地域の人材を活用することはもちろん、地域の施設の活用や訪問などにも積極的に取り組んでいきたい。また、学校から地域についての発信を児童・保護者に積極的に行うことで、地域の行事等への参加も増えるのではないかと考える。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
・あいさつに関して、子どもたちはしていると感じている。あいさつが返ってこないこともあるが、地域の方や保護者の方から見ると日吉の児童はあいさつを返してくれるという印象を持っている。 ・登下校の安全に関することでは、登校時、下校時ともに道路に広がるなど安全に登校できていないこともある印象である。交通安全に関することについて、再度確認していく必要がある。 ・学校評価アンケートを見ると、保護者と教職員の意識の違いが大きいところがある。保護者の「ややそう思う」は「あまり思わない」に傾いていることがあり、実際には「ややそう思う」はもっと少ないことが考えられる。昨年度同様、学校の取組をもっと周知するなど、改善策を考えてみる必要があるのではないかと考える。	○学校教育目標の達成に向けて取り組んできたが、教員の数が十分とは言えず、児童の学びに少なからず影響があったように思う。十分な人員配置を教育委員会に引き続きお願いするとともに、研修などで指導力の向上を図れるように取り組んでいきたい。 ○行き渋りや不登校など、児童やその保護者の問題については年々多様化してきているように感じる。校内支援体制はある程度構築できていることから、校内での連携を促し、外部機関との連携、保護者との連携、教職員の連携を深めながら支援に力を入れていきたい。 ○学習指導要領が一番求めているものは、人とのかかわりの中で、いかに一人一人が資質・能力を育てていけるかであるが、オートメーション化が進む中で、人とのかかわりも希薄になりつつある。子どもたちができるだけ人とかかわりながら「考える力」や「判断する力」、「伝える力」を身に付け、資質・能力を向上させていきたい。次期学習指導要領の改訂にも国が着手していることからその動向を注視していきたい。